

決算説明会

2012年3月期

2012年5月10日
ミネベア株式会社



1. 業績の説明

2. 経営方針と事業戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

2012年5月10日

2

東日本大震災、レアアース高騰、円高、タイ大洪水などで減収減益

(百万円)	2011年3月期 通期	2012年3月期 通期	前年比 伸び率
売上高	269,139	251,358	-6.6%
営業利益	22,163	8,599	-61.2%
経常利益	20,364	6,499	-68.1%
純利益	12,465	5,922	-52.5%
一株当たり 純利益(円)	32.61	15.63	-52.1%

為替レート	11/3期 通期	12/3期 通期
US\$	86.04円	79.07円
ユーロ	113.22円	110.20円
タイバーツ	2.75円	2.59円
人民元	12.78円	12.33円

2012年5月10日

3

2012年3月期の連結業績は、売上高が前期比6.6%減の2,513億5,800万円、営業利益は61.2%減の85億9,900万円、純利益は前期比52.5%減の59億2,200万円と、大幅な減収減益となりました。これは東日本大震災、レアアースの高騰、史上最高水準の円高、タイの大洪水などの大きなマイナス影響によるもので、新市場の開拓やコスト削減などの様々な努力も及びませんでした。

**タイ大洪水によるサプライチェーン混乱からの回復が進む
洪水保険金収入などで純利益は大きく改善**

(百万円)	2011年3月期	2012年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	4Q	3Q	4Q		
売上高	63,944	56,716	62,193	-2.7%	+9.7%
営業利益	4,194	850	1,695	-59.6%	+99.4%
経常利益	3,710	323	1,142	-69.2%	3.5倍
四半期純利益	1,816	△3,055	6,208	3.4倍	N.M.
一株当たり 四半期純利益(円)	4.75	△8.07	16.40	3.5倍	N.M.

為替レート	11/3期4Q	12/3期3Q	12/3期4Q
US\$	81.78円	77.51円	78.27円
ユーロ	110.55円	105.99円	103.28円
タイバーツ	2.67円	2.50円	2.53円
人民元	12.39円	12.16円	12.39円

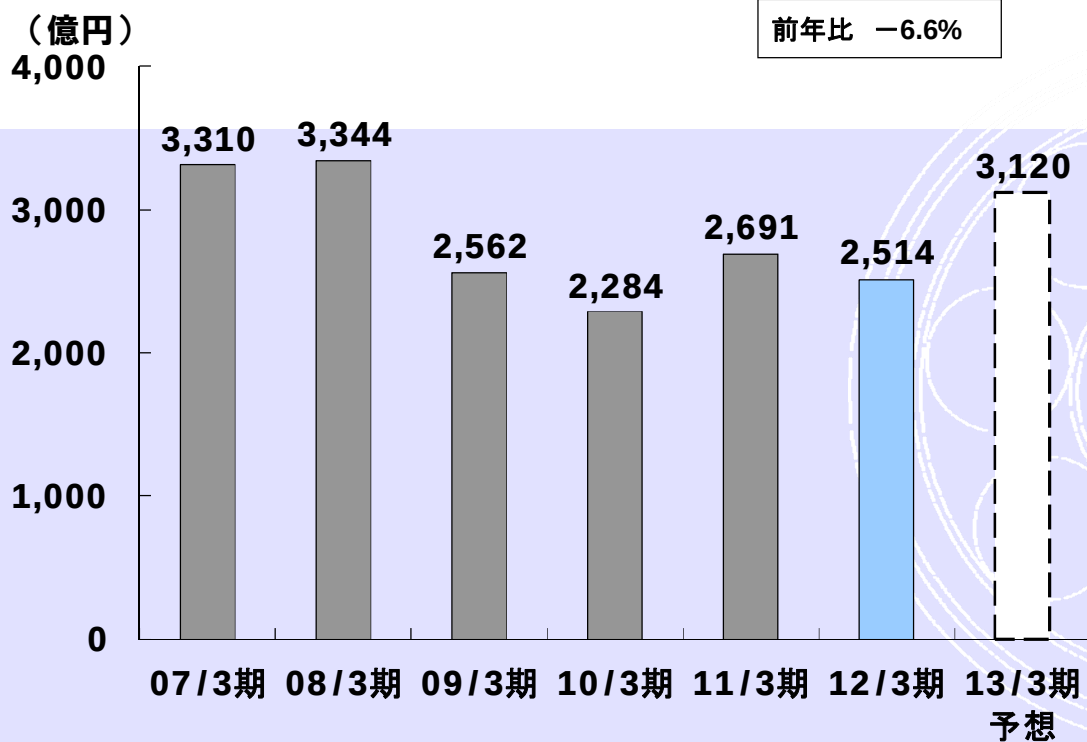
2012年5月10日

4

2012年3月期第4四半期の連結業績は、第3四半期と比べ、売上高が9.7%増の621億9,300万円でした。営業利益は、タイ大洪水によるサプライチェーン混乱からの回復が進み、99.4%増の16億9,500万円となりました。

四半期純利益は62億800万円と大幅に増えました。これは特別利益としてタイ大洪水の保険金収入が96億円あったこと、一方で特別損失として、スピンドルモーターの部品製造を行う2工場のタイ洪水被災を中心とした「災害による損失」を59億円計上したことなどが主な要因です。

また、為替の影響については、前年同期と比べ売上高でマイナス23億円、営業利益でマイナス1億円、前四半期に比べ売上高でプラス2億円、営業利益でマイナス3億円の影響があったと推計しています。



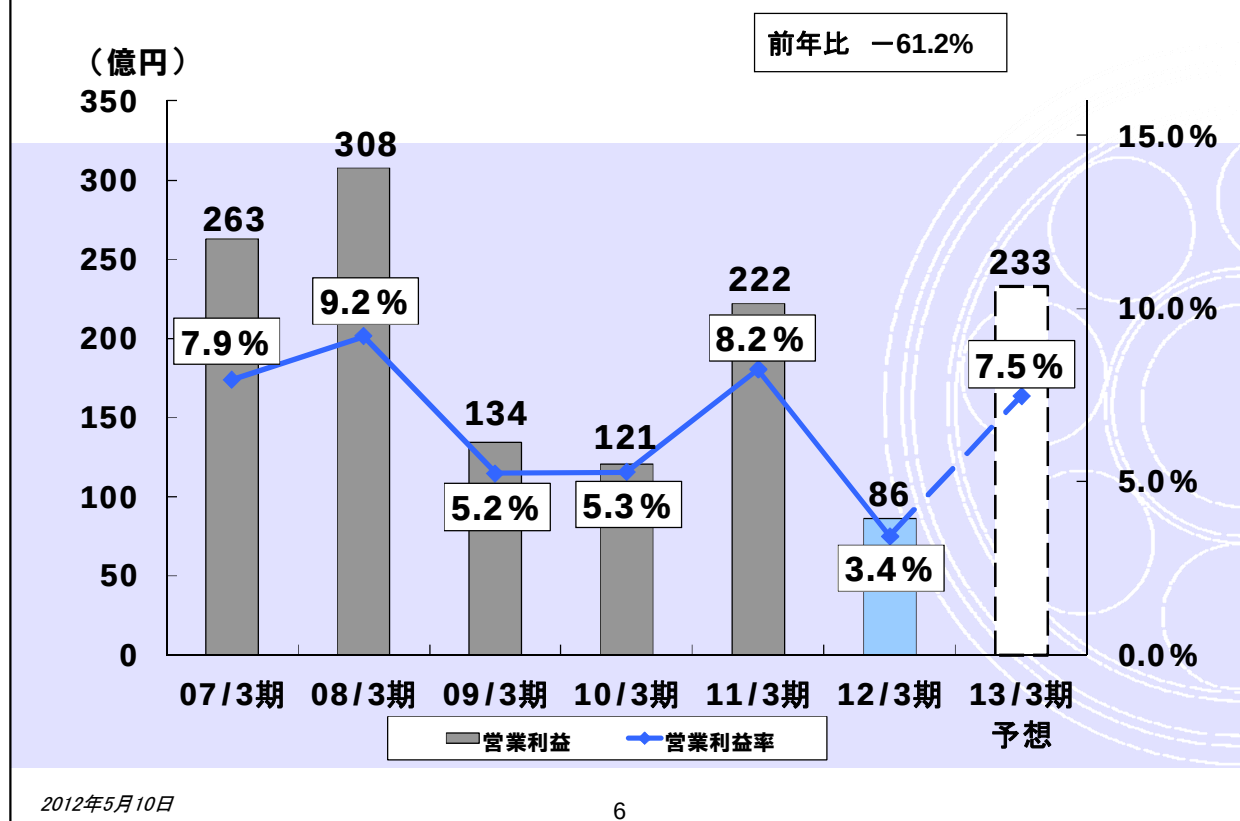
2012年5月10日

5

これは売上高の年毎の推移です。

2012年3月期の売上高は、前期比6.6%減の2,514億円でしたが、この中には、円高傾向が続いたため前期と比べマイナス134億円の為替の影響があったと推計しています。

今期2013年年3月期の売上高は、前期の災害影響が無くなる事に加え、一部事業での大きな売上増加が見込まれることなどから大幅な回復を見込んでいます。



これは営業利益の年毎の推移です。

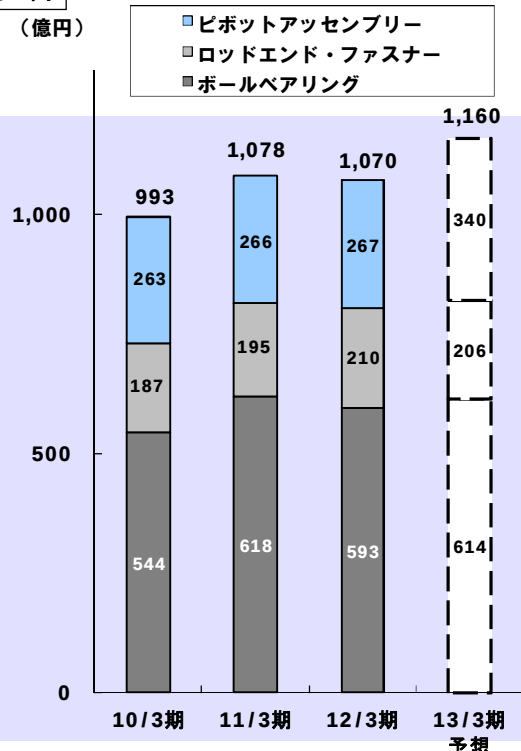
2012年3月期の営業利益は、前期比61.2%減の86億円、営業利益率は4.8ポイント低下し3.4%でした。

このうち、為替の影響は、前期比4億円のマイナスと推計しています。

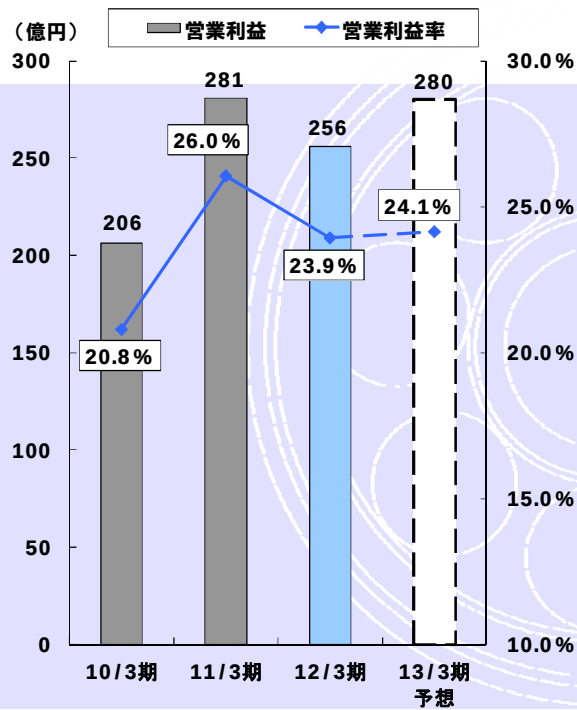
今期2013年3月期の営業利益は、売上増加による稼働率上昇や様々なコスト削減策の進展などによる収益性の改善が見込まれ、大幅な回復を見込んでいます。

売上高
(億円)

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。



営業利益



2012年5月10日

7

次に、各事業セグメントの状況についてですが、機械加工品事業セグメントの2012年3月期の売上高は、前四半期比0.7%減の1,070億円となり、営業利益は8.8%減の256億円となりました。営業利益率は2.1ポイント低下し23.9%となりました。

製品別では、ボールベアリングでは、東日本大震災やタイ大洪水によるサプライチェーン混乱のマイナス影響はあったものの、当社製ピボットのシェア上昇に伴うピボット向け出荷の増加や、新興国を中心とした世界経済の伸びに支えられて出荷数量は月平均2億6百万個と1.3%増加しました。一方、円高の影響で、売上高は前四半期比4.0%減の593億円となりました。利益面では、サプライチェーン混乱による一時的な生産効率の低下、新工場建設による固定費負担増などが影響し、減益となりました。今期2013年3月期については、タイ人件費高騰の影響はあるものの、自動車向けやOA機器向けの回復に加え、HDD市場の回復に伴いピボット向けが更に増加すると見込んでおり、増収増益となる見込みです。

ロッドエンド・ファスナーでは、航空機生産の拡大に伴う部品受注増加が続き、円高の悪影響にもかかわらず、売上高は前期比7.7%増の210億円となり、利益も増加しました。今期は、円高が継続するとの前提で、売上高の減少と利益の減少を見込んでいます。

ピボットアッセンブリーについては、タイ大洪水でHDDのサプライチェーンが寸断されたものの、競合社の被災により当社のシェアが上昇したため、出荷数量は月平均3,300万個と約1割増加して史上最高水準を更新しました。売上高は267億円と、円高の影響でわずかな増加に留まりました。利益面では、サプライチェーンの混乱による一時的な生産効率の低下がひびき、減益となりました。今期は、HDD生産の回復に伴い、当社のピボット出荷数量は大きく増加すると見込まれ、大幅な増収増益を見込んでいます。

売上高

(億円)

300

200

100

0

1Q

2Q

3Q

4Q

11/3期

1Q

2Q

3Q

4Q

12/3期

■ピボットアッセンブリー
■ロッドエンド・ファスナー
■ボールベアリング

282

268

266

263

74

63

66

63

48

49

49

49

160

155

151

151

52

53

56

51

157

152

138

54

275

271

244

280

営業利益

(億円)

80

60

40

20

0

1Q

2Q

3Q

4Q

11/3期

1Q

2Q

3Q

4Q

12/3期

■営業利益 ◆営業利益率

71

73

69

68

27.3%

26.0%

25.8%

22.9%

63

71

57

26.1%

23.3%

23.4%

65

2012年5月10日

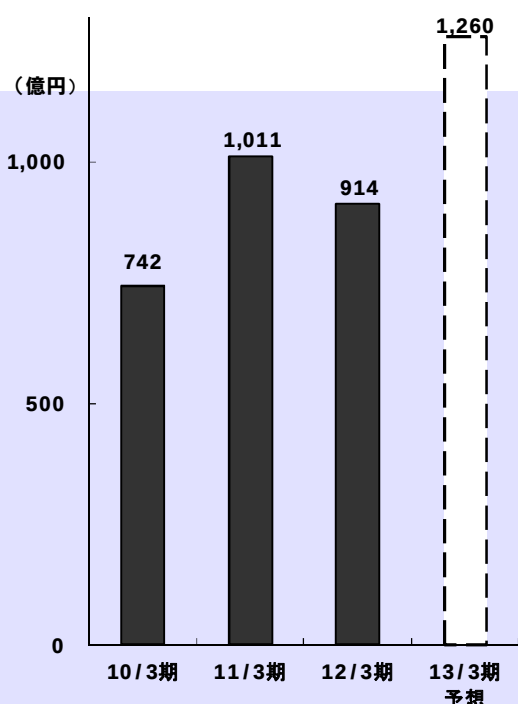
8

こちらは機械加工品事業セグメントの四半期ごとの推移です。

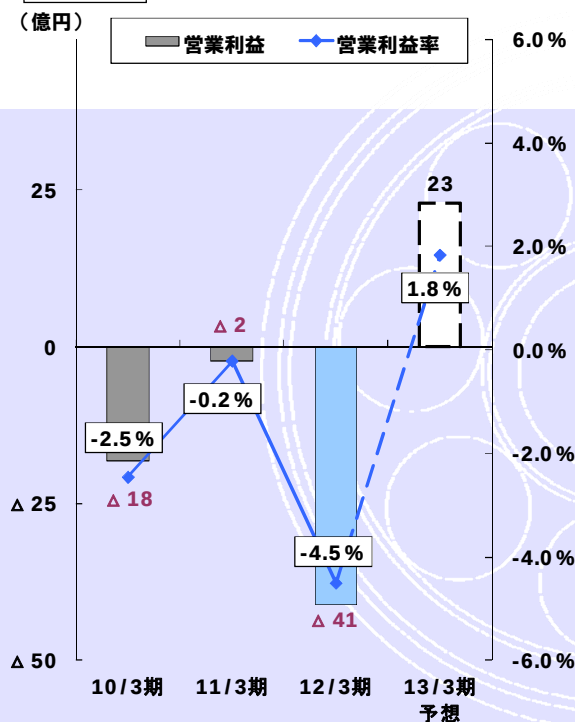
第4四半期には、タイ大洪水からの回復が進み、販売数量が大きく増加し、売上高は前四半期比14.7%増の280億円、営業利益は15.0%増の65億円となりました。営業利益率は0.1ポイント改善し23.4%となりました。

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

売上高



営業利益



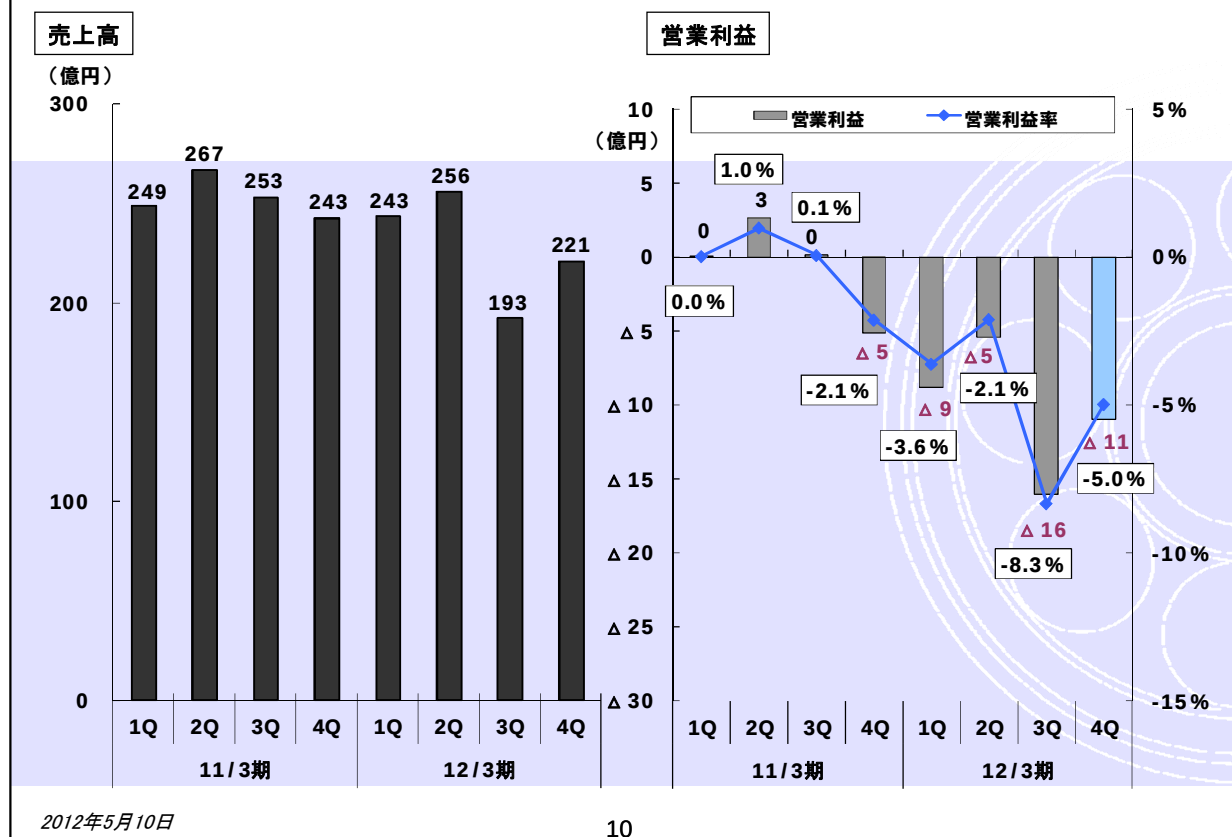
2012年5月10日

9

回転機器事業セグメントの2012年3月期売上高は、前期比9.7%減の914億円、営業損益は、41億円の損失と赤字が拡大しました。営業利益率は4.3ポイント低下しマイナス4.5%となりました。

東日本大震災やタイ大洪水によるサプライチェーン混乱で需要が減少したマイナス影響に加え、洪水でロジヤナ工場とナワナコン工場の部品生産設備が被災したHDDスピンドルモーターと、ドライバーICチップが入手難で生産に支障をきたしたファンモーターについて、大きなマイナス影響がありました。また、第2四半期を中心にレアアース高騰によるマグネットの値上がりというマイナス影響もありました。

今期2013年3月期は、前期の災害やレアアースの値上がりといったマイナス影響が無くなる事に加え、生産設備が復旧するHDDスピンドルモーターで売上の増加と黒字化が見込めることなどを中心に、大幅な増収と営業利益の黒字化を見込んでいます。

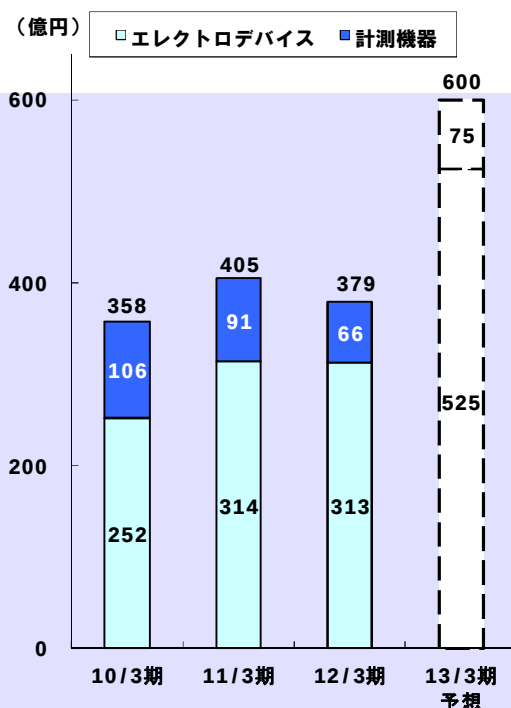


こちらは回転機器事業セグメントの四半期ごとの推移です。

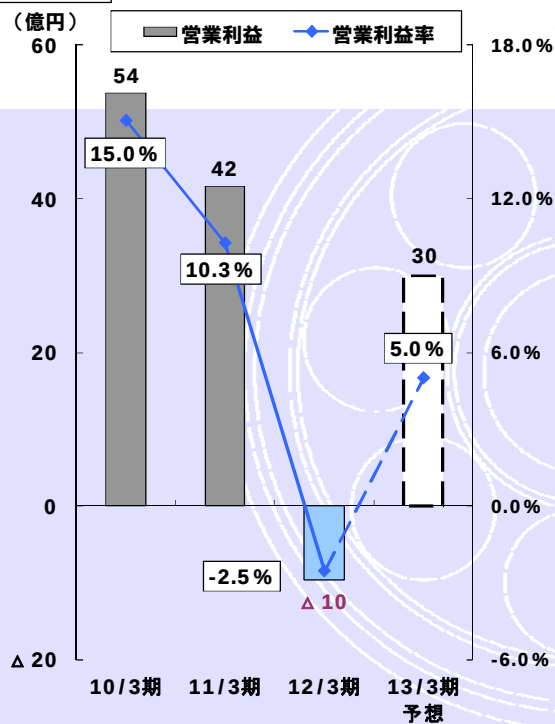
第4四半期には、タイ大洪水からの回復が進み、スピンドルモーターを中心に販売が増加したため、売上高は前四半期比14.8%増の221億円となりました。営業損益は赤字幅が5億円縮小し、11億円の損失、営業利益率は3.3ポイント改善しマイナス5.0%となりました。

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

売上高



営業利益



2012年5月10日

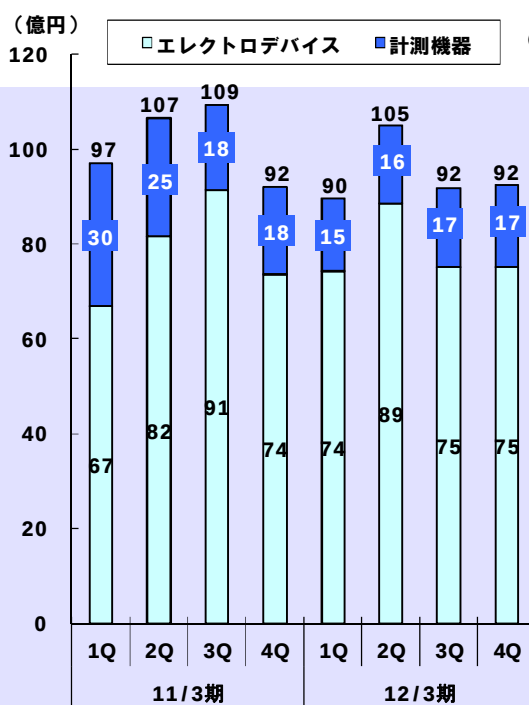
11

電子機器事業セグメントの2012年3月期売上高は、前期比6.5%減の379億円、営業損益は10億円の損失となりました。営業利益率は12.8ポイント低下しマイナス2.5%となりました。

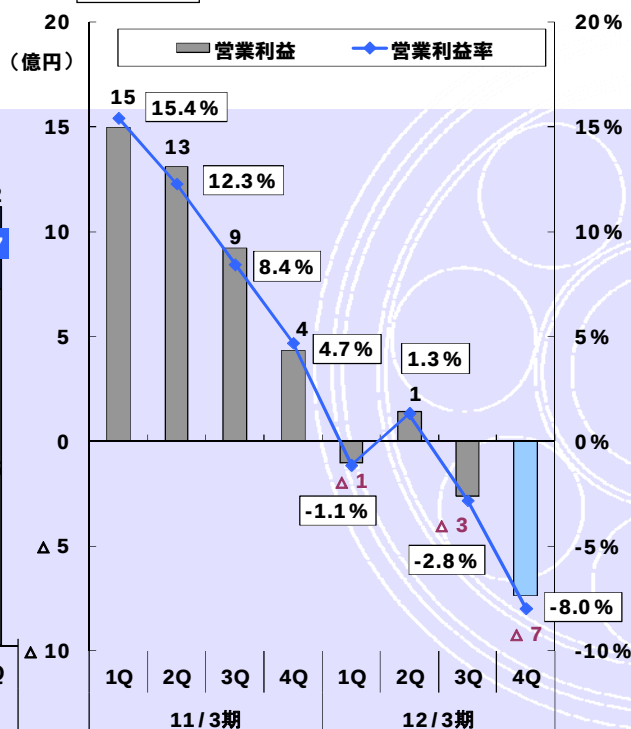
LEDバックライトは大型受注を受け、蘇州工場を昨年4月に新設するなど生産能力を拡大させましたが、東日本大震災とタイ大洪水による一部部材の調達難に見舞われた上、タブレットPC向けの出荷が納入先都合で遅れたため、固定費増加の一方で売上が伸びず、赤字に転落しました。計測機器も、災害によって国内メーカーの自動車生産が支障をきたした影響で売上、利益とも減少しました。

今期については、LEDバックライトにおいて、タブレットPC向けの出荷が4月に開始され、スマートフォン向け大型受注の出荷が5月から始まる予定で、大幅な増収と収益改善を見込んでいることから、事業セグメント全体でも大幅な増収と黒字転換を見込んでいます。

売上高



営業利益



2012年5月10日

12

こちらは電子機器事業セグメントの四半期ごとの推移です。

第4四半期もタブレットPC向けLEDバックライトの出荷が開始されなかったため、売上高は前四半期比かわらずの92億円となりました。営業損益は、生産増加に備えるための固定費増加で赤字幅が4億円拡大し7億円の損失、営業利益率は5.2ポイント低下しマイナス8.0%となりました。

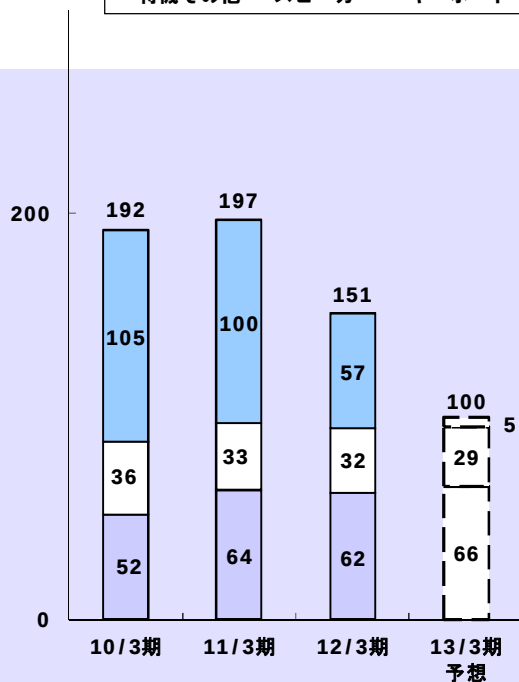
売上高

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

営業利益

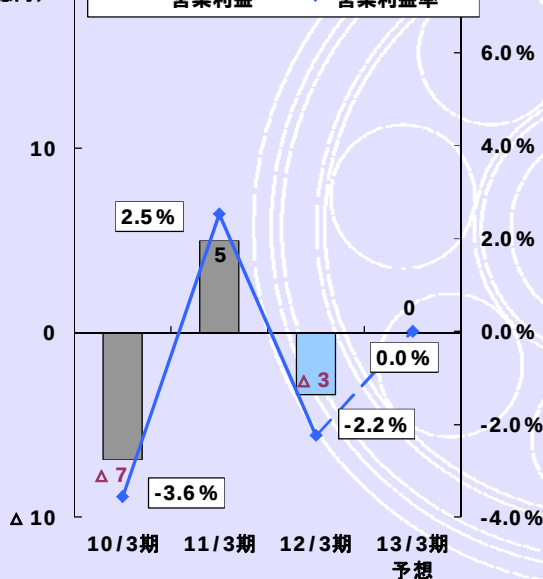
(億円)

■特機その他 □スピーカー ■キーボード



(億円)

■営業利益 ◆営業利益率



2012年5月10日

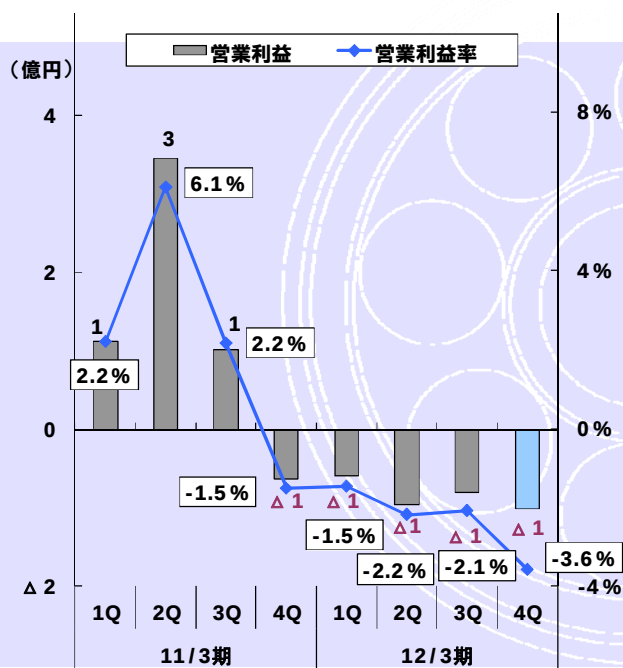
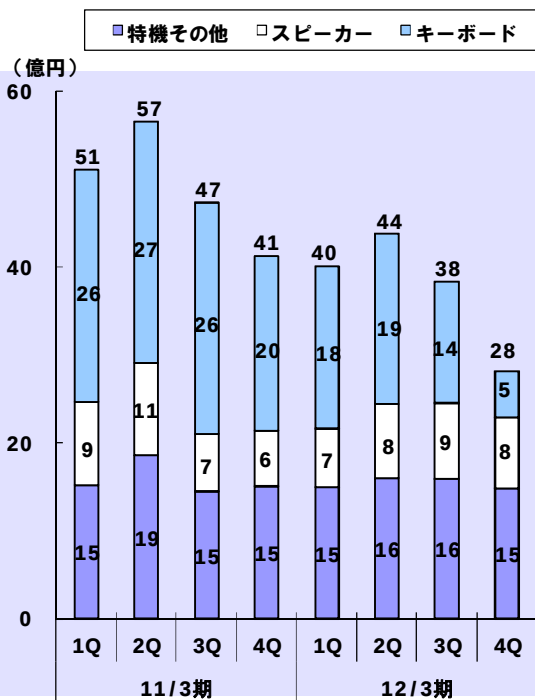
13

その他事業セグメントについては、売上高が前期比で23.3%減の151億円、営業損益は3億円の赤字となりました。営業利益率は4.7ポイント低下してマイナス2.2%となりました。

第3四半期にキーボード事業の縮小策を実施したため、今期の売上高は減少しますが、その効果で収支均衡となる見込みです。

売上高

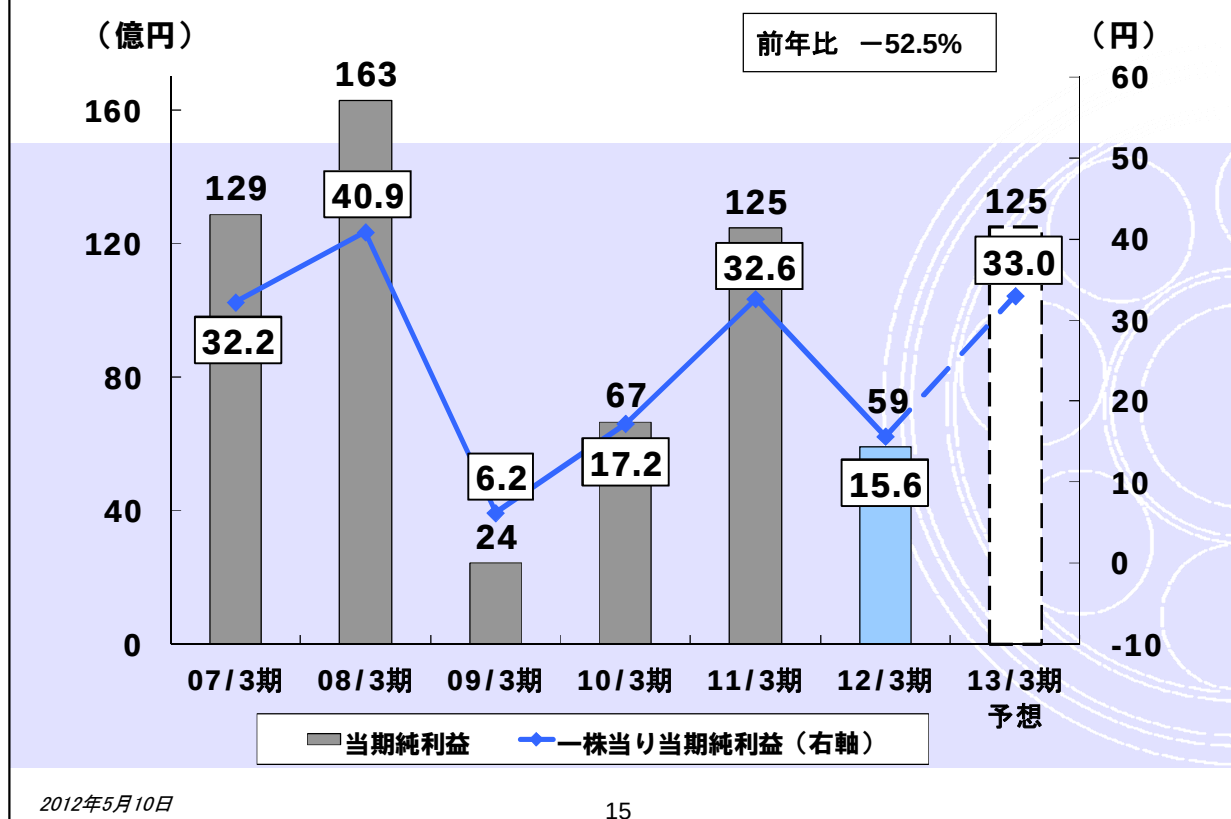
営業利益



2012年5月10日

14

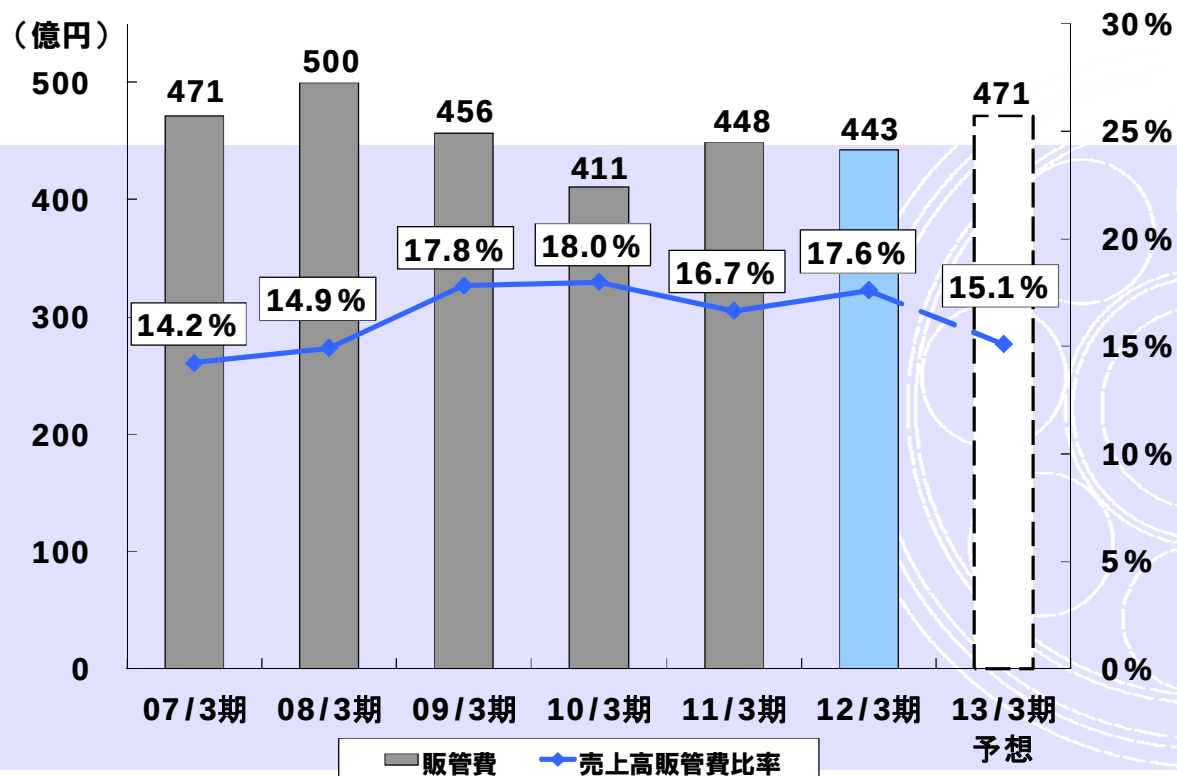
これは、その他事業セグメントの四半期実績推移です。



2012年3月期の純利益は、前期比52.5%減の59億円となりました。一株当たり純利益は、15.6円となりました。

これは、営業利益、経常利益の大幅減少に加えて、特別利益が99億円、特別損失が108億円あったためです。主な特益の内訳としては、タイ大洪水の保険金収入が一部確定したため、96億円の保険金収入がありました。主な特損の内訳としては、タイ大洪水による操業率低下と固定資産への影響の2つを合わせた「災害による損失」が78億円、キーボード事業などに関わる「事業構造改革損失」が16億円、金融株の値下がりに伴う「投資有価証券評価損」8億円、などがありました。

今期2013年3月期には、営業利益の大幅な改善に伴い、図のような純利益の回復を見込んでいます。但し、洪水の保険金収入の残りについては、この予想には含まれておりません。

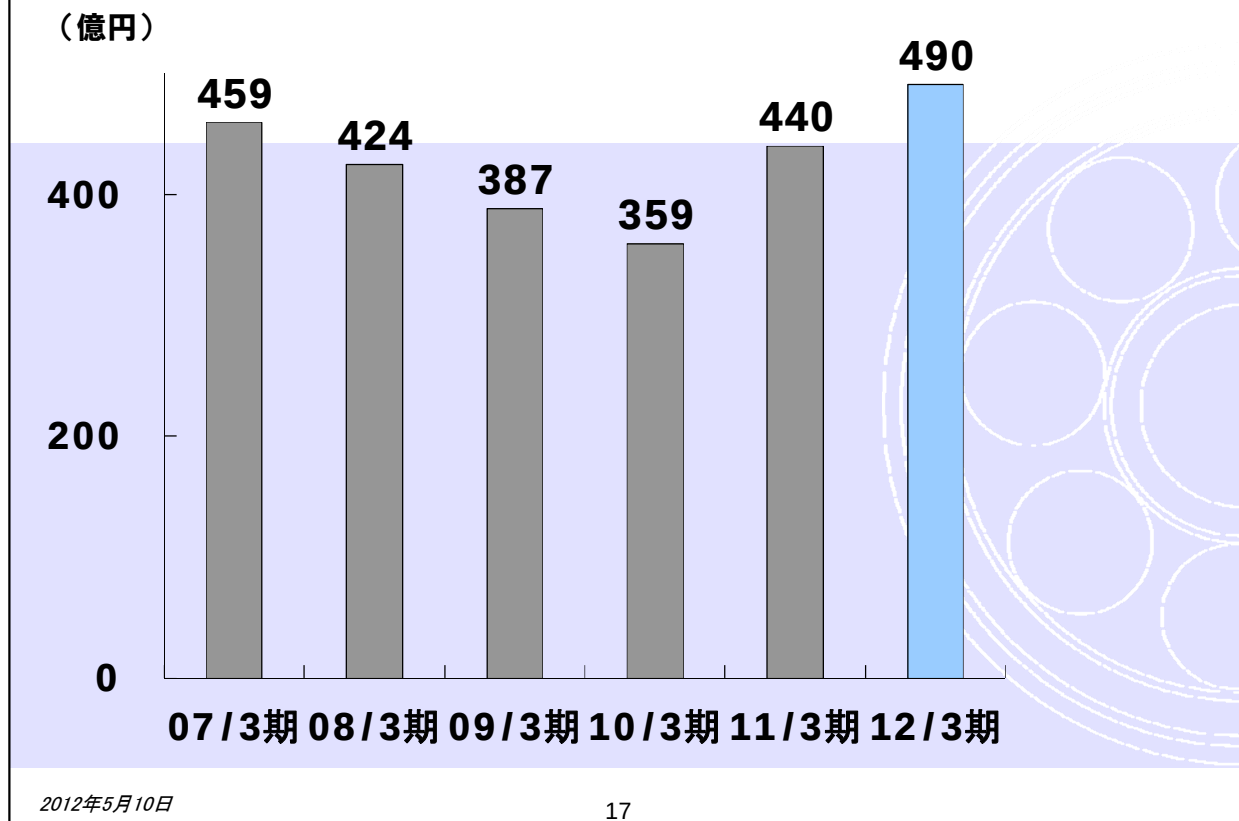


2012年5月10日

16

販管費は、前期比5億円減少の443億円となりましたが、売上減少により売上高販管費比率は前四半期比で0.9ポイント上昇し17.6%となりました。

2013年3月期は売上高の大幅増加により、販管費も増加が避けられませんが、売上高販管費比率は低下すると見込まれます。



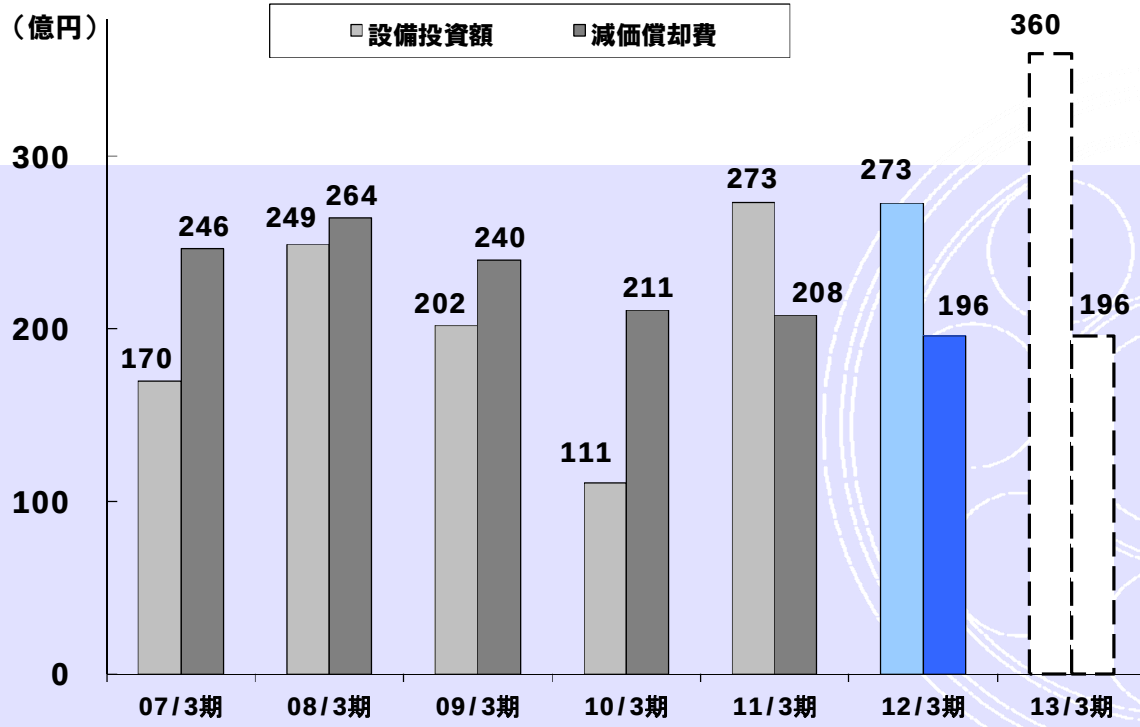
期末のたな卸資産は50億円増加しました。これは、災害復旧需要を含む好調な受注に対応して、在庫を積み増したためです。

今後も、急激な需要増加や非常時に備える観点から、当社の在庫水準もある程度高めに推移すると見込んでいます。

設備投資額・減価償却費

年推移

Minebea
Passion to Exceed Precision



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

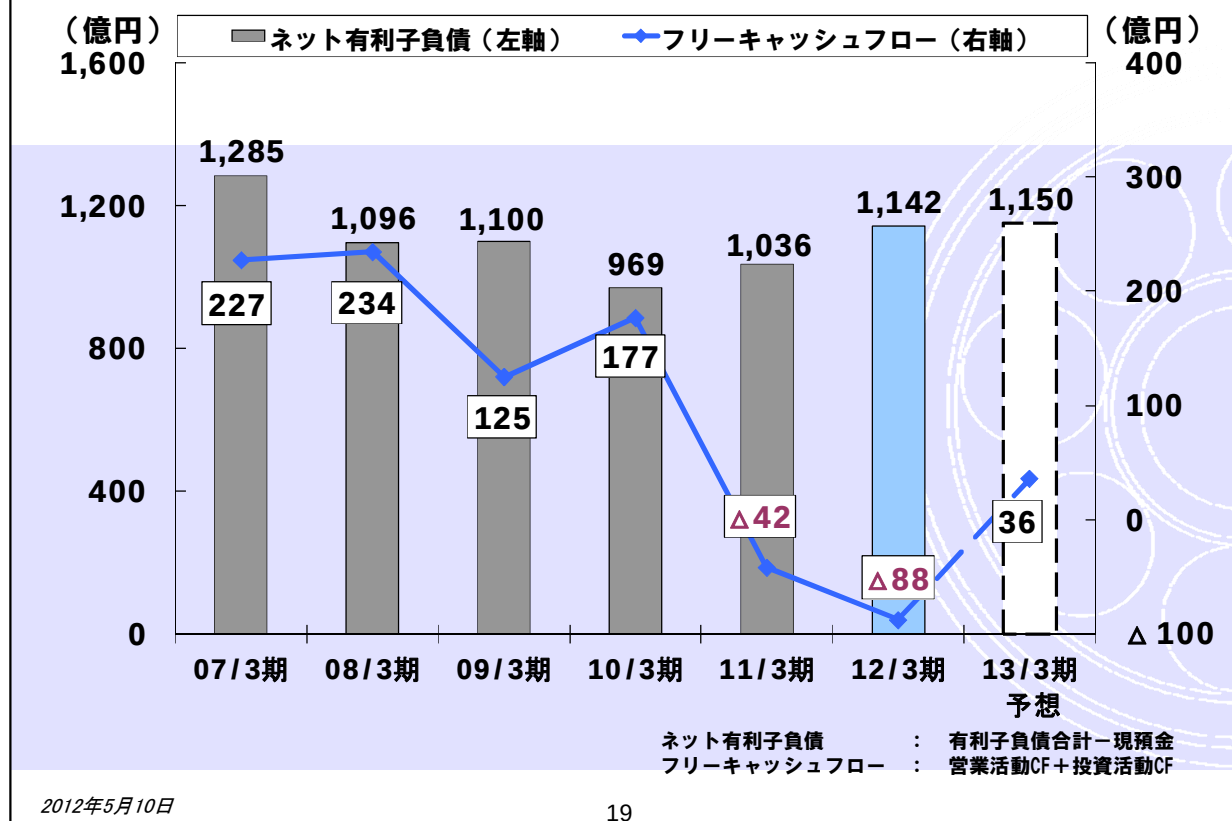
2012年5月10日

18

通期の設備投資は273億円、減価償却費は196億円でした。

当社は生産能力の増強を進めており、2012年3月期には、LEDバックライトの蘇州新工場、タイのボールベアリング新工場、カンボジアのモーター工場が稼動を始めました。タイのロッブリでの多目的新工場も今年1月に完成しました。加えて、タイ大洪水で被災した設備の復旧投資も進めたため、高水準の設備投資となりました。

今期2013年3月期は、洪水からの復旧投資が本格化することに加えて、成長分野における更なる生産能力増強が必要なため、360億円の設備投資を計画しています。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

期末におけるネット有利子負債は、1,142億円となり、前期末比106億円の増加となりました。これは東日本大震災やタイ大洪水などの影響で当期の利益が大幅に減少する一方で、復旧投資に加えて、成長分野での新工場建設などの資金需要が増加し、フリーキャッシュフローが88億円のマイナスに留まったことによるものです。

今期は、利益の大幅な改善が見込めるため、フリーキャッシュフローは36億円のプラスに転じる見込みです。

タイ大洪水などのマイナス要因が無くなることに加えて、
HDD向け部品やLEDバックライトの大きな伸びにより、大幅な業績改善へ

(百万円)	2012年3月期	2013年3月期予想			
	通期	上半期	下半期	通期	前年比 伸び率
売上高	251,358	148,100	163,900	312,000	+24.1%
営業利益	8,599	9,400	13,900	23,300	2.7倍
経常利益	6,499	8,200	12,600	20,800	3.2倍
純利益	5,922	5,600	6,900	12,500	2.1倍
一株当たり 純利益(円)	15.63	14.78	18.21	32.99	2.1倍

為替レート	12/3期	13/3期想定
US\$	79.07円	77.00円
ユーロ	110.20円	103.00円
タイバーツ	2.59円	2.50円
人民元	12.33円	12.20円

2012年5月10日

20

これは、今期2013年3月期の業績予想をまとめたものです。

タイ大洪水などのマイナス影響が無くなることに加えて、ピボットアッセンブリーやスピンドルモーターといったHDD向け部品や、LEDバックライトの売上が大きく伸びることにより、今期は大幅な業績改善を予想します。

(百万円)	2012年3月期	2013年3月期予想			前年比 伸び率
	通期	上半期	下半期	通期	
売上高	251,358	148,100	163,900	312,000	+24.1%
機械加工品	107,037	57,300	58,700	116,000	+8.4%
回転機器	91,363	59,900	66,100	126,000	+37.9%
電子機器	37,887	26,300	33,700	60,000	+58.4%
その他	15,068	4,600	5,400	10,000	-33.6%
営業利益	8,599	9,400	13,900	23,300	2.7倍
機械加工品	25,611	13,800	14,200	28,000	+9.3%
回転機器	△4,118	20	2,280	2,300	N.M.
電子機器	△959	580	2,420	3,000	N.M.
その他	△338	0	0	0	N.M.
調整額	△11,595	△5,000	△5,000	△10,000	-13.8%

2012年5月10日

21

こちらは、各事業セグメント別の業績予想です。

経営方針と事業戦略について

2012年 5月10日

代表取締役 社長執行役員

貝沼 由久

22

私から経営方針と事業戦略についてご説明します。

2月に中期事業計画の説明会を開催し、それと内容が重なる部分も多いので、本日は簡潔にご説明します。

前期の状況と今期の動向

60周年⇒災害対応の年

- ・東日本大震災、タイ大洪水に加えて、超円高、レアアース高騰などの外部マイナス要因に対し、全社一丸となつての対応を行った

タイ大洪水で被災したスピンドルモータ部品工場の復旧

- ・ナワナコン工場(機械加工部品製造)は、4月後半に完全復旧
- ・ロジャナ工場(ベースプレート製造)は、6月には完全復旧へ

販売回復

- ・タイ大洪水後の販売は、ほぼ想定通り
- ・タブレットPC用LEDバックライトでは立ち上げが遅れたものの、今年4月から量産開始

マクロ経済動向

- ・OA機器、自動車を中心に、現在、生産は回復基調
- ・今後は、中国の成長率は鈍化するも、米国景気は回復基調で、全般的にはほぼ想定通り。ただし、欧州財政危機悪化の懸念は拭えず

2012年5月10日

23

前期の状況と今期の動向のスライドですが、前期の決算は加藤木が説明した通り未達となってしまいました。

大きな原因は2つあると思います。

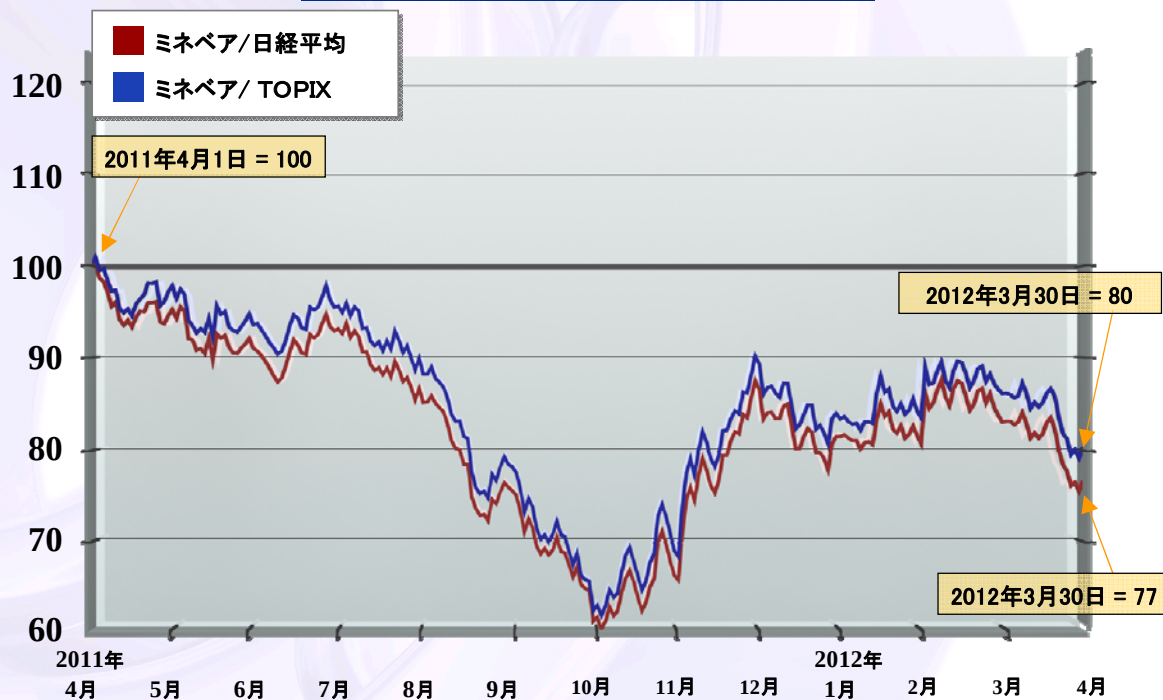
一つはLEDバックライトです。これは皆様にもうすぐですと申し上げてきたタブレットPC用のLEDバックライトの出荷が非常に遅れてしまった事が、売上高と営業利益の大きな差になっているように思います。

あともう一つは、タイ大洪水から回復する過程において、販売のもう少し急激な立ち上がりを予想していましたが、この立ち上がりの角度が思ったよりも少し下だったと思います。

純利益については、タイ大洪水の保険金収入が特別損失を相殺して、修正した計画は達成することができました。

相対株価パフォーマンス

2011年4月1日～2012年3月30日



2012年5月10日

24

株価パフォーマンスはだらしないう結果で申し訳がないという一言に尽きます。

新中期事業計画の戦略

2012年5月10日

25

新中期事業計画業績目標修正 (2013～15年3月期)

■激変する ビジネス環境に対応

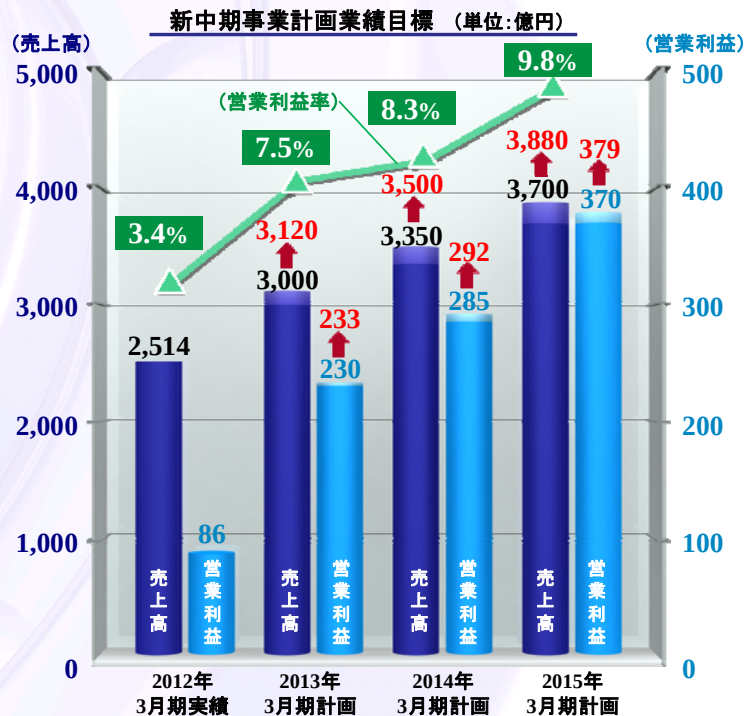
高収益の機械加工品事業の
拡大に注力

■ LEDバックライトは 収益拡大

スマートフォン、タブレットPC
向け販売急拡大

■モーター事業は 収益貢献へ

—M&Aによる更なる拡大—
各買収決定後、
中期事業計画に逐次反映予定
(Moatech社の株式取得を織り込み)



為替前提は
据え置き 77円/US\$, 103円/ユーロ, 2.5円/バーツ, 12.2円/人民元

2012年5月10日

26

新中期事業計画の戦略ですが2月にご説明した内容になります。

激変するビジネス環境に対応、LEDバックライトは収益拡大、モーター事業は収益貢献へ、M&Aによる更なる拡大、ということです。Moatech社の買収を発表し関係当局からの承認も取れたので、スライドで赤く示している通りその分の売上高と営業利益を上乗せしました。

機械加工品事業セグメント

■ピボットのシェアアップ

ピボット向けボールベアリング
月1億個、ピボット月5000万
個へ拡大

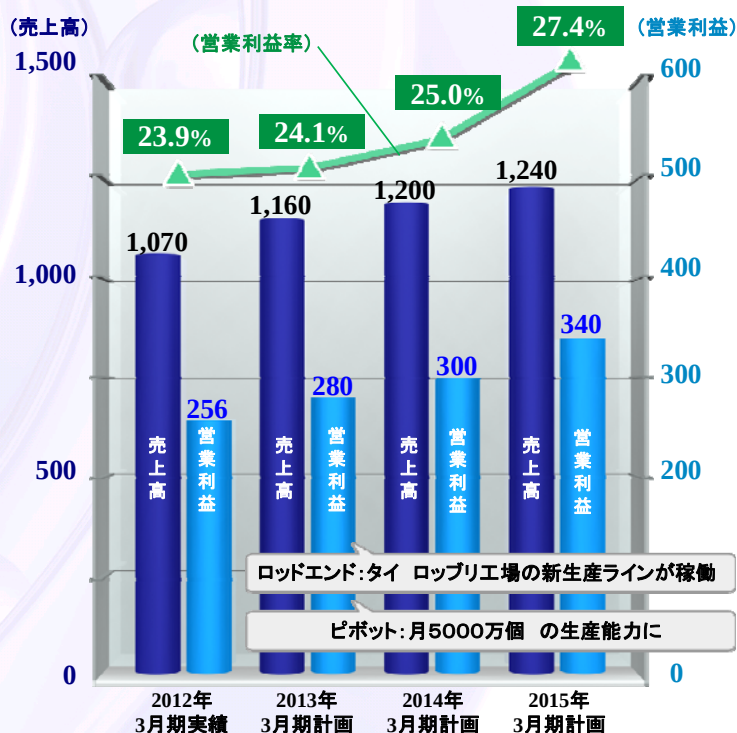
■ボールベアリング 生産能力拡大

市場の着実な成長と
新市場への参入

■タイでのロッドエンド 生産能力増強

拡大する航空機市場

機械加工品事業セグメント業績目標 (単位:億円)



2012年5月10日

27

機械加工品セグメントについては、ピボットのシェアアップ、ボールベアリング生産能力の拡大、タイでのロッドエンド生産能力の増強ということで、後でもう少し詳しくご説明しますが、磐石な態勢であるというて良いと思います。

ピボットの市場シェア急上昇

・市場シェア急上昇

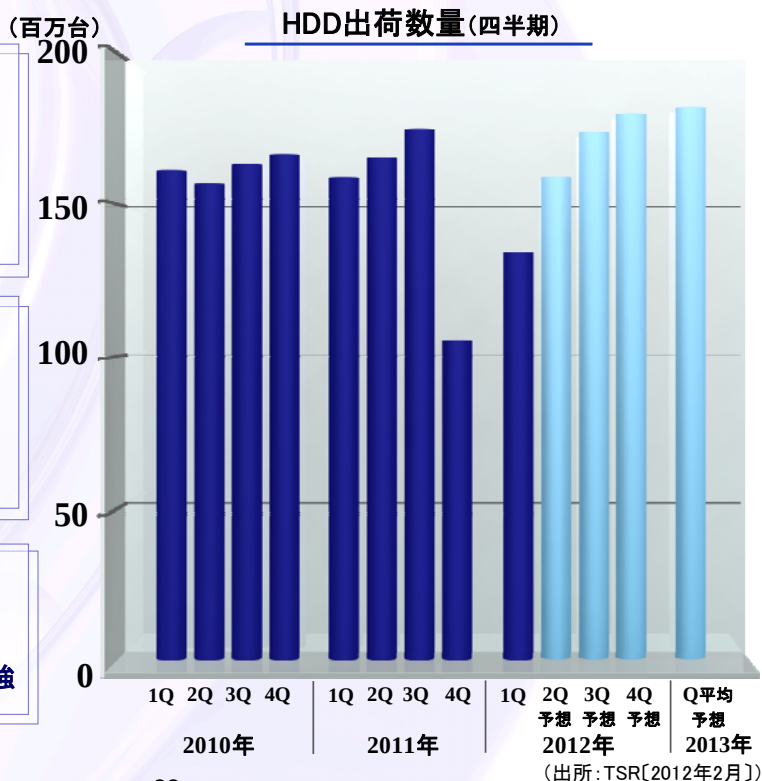
昨年10月のタイ大洪水で、
競合1社(市場シェア2割)が被災し
生産不能となって以降、当社シェア
がそれまでの6割から8割へ増加

・HDD市場は復旧へ

業界全体のHDD生産量は未だ
タイ大洪水前の 7～8 割だが、
生産能力の復旧とともに
過去最高水準へ

・生産能力増強

ピボットの安定供給に向け、
月産5千万個体制へ生産能力を増強



2012年5月10日

28

その中でも、ピボットの市場シェアの急上昇という事で、今、当社は競合他社が被災した事もありまして80%の市場シェアを維持しています。毎月、ピボットの出荷量は記録を更新し、先月は4,200万個を越えた状況です。今月も4,300万個を見込んでいます。一部ではピボットの供給能力が足りないのではないかと噂を聞きましたが、現在、全く供給に支障はありません。ただ、足元ではWindows8の市場インパクトが弱いという事や、欧州景気もスローダウンしてきており、HDD市場は少し調整色が出てきていると思う所はありますけれども、今後6～8月にかけてまたかなり復活していくのではないかと考えています。

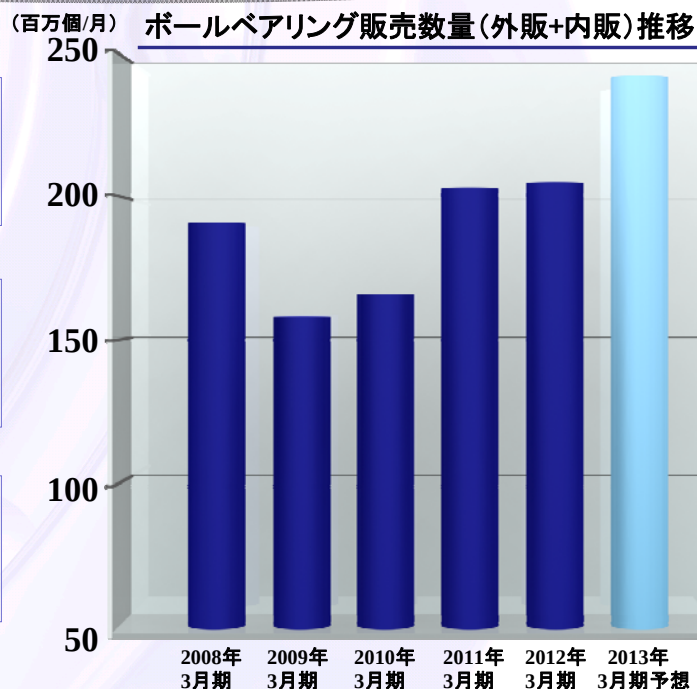
ボールベアリング販売は着実に増加

世界経済の着実な拡大と共にボールベアリング需要は拡大中

・バンパイン新工場での
ピボット向け増産

・販売拠点強化による
新興国需要の取込み

・新市場(低価格量産品と
中径サイズ)への参入



2012年5月10日

29

1～3月期はボールベアリングの回復はまだ弱かったのですが、ここに来て順調に伸び始めてきました。4～6月には過去最高を超えて、月2億4,000万個近くまでボールベアリング販売が伸びていくと見込んでいます。

為替の問題もあり価格は厳しいのですが、その反面、特に新興国の競合の動きが積極的でなくなってきたと言っても良いと思います。去年の12月にオープンしたタイ・バンパインの新工場で作れるだけ早く生産数量を増やしていく事が我々の課題です。ボールベアリング販売は順調にこれから伸びていくと予想しています。

航空機用ベアリングの受注好調

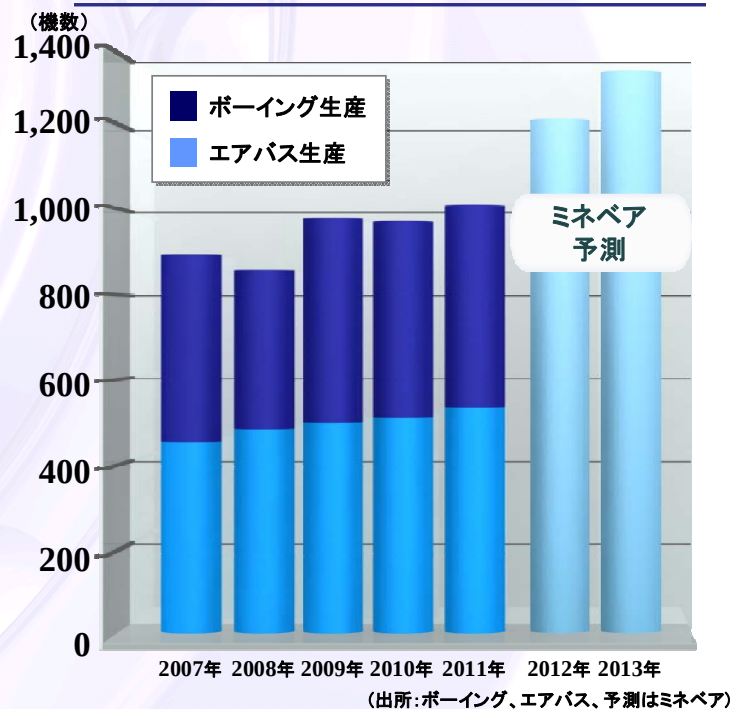
航空機受注が増加し、
中期的に市場は拡大中

ボーイング787生産も
拡大局面に入った



- ・製品範囲の拡大に取り組む
- ・製造コスト引下げに向け、
タイ・ロップリ工場の生産能力を拡張

ボーイング・エアバス民間航空機出荷機数推移



2012年5月10日

30

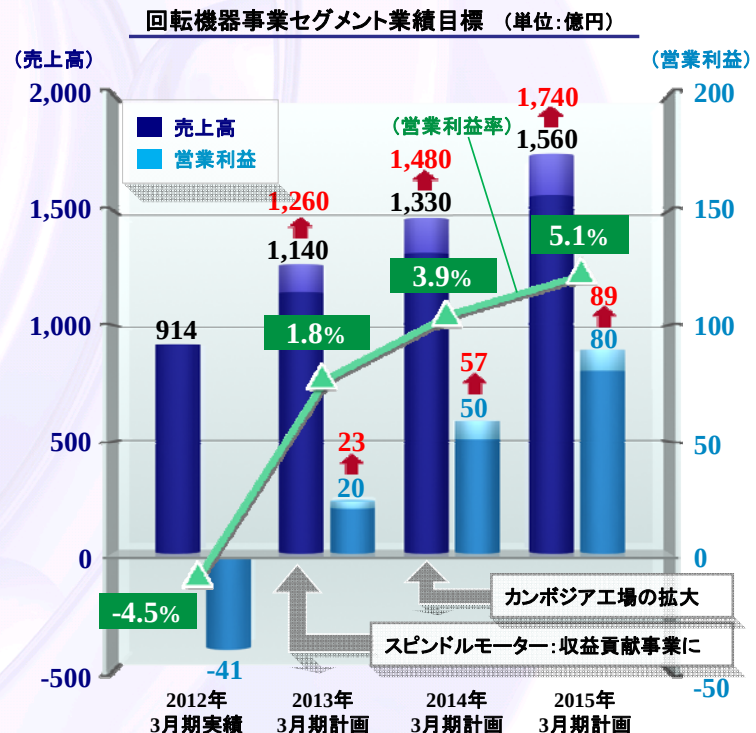
航空機用のベアリングは、ボーイング787も生産が拡大局面に入ってきましたので、これから当社のアメリカ、イギリス、日本、新しいタイの工場の連携を深め、効率的にこのビジネスで利益を上げていきたいと思っています。

回転機器事業セグメント

■モーター事業は
収益貢献へ

■コスト競争力強化

カンボジア工場拡大、
垂直統合生産の改善、
韓国子会社との連携



2012年5月10日

31

問題は皆様からも指摘されていますが、回転機器事業セグメントです。

ただ、今期は、前期のような震災や洪水は無いと想定していますので、事業改善を進めモーター事業を収益貢献に結び付けていきたいと思っています。この中で、一つの大きな要素はHDDスピンドルモーターの改善とカンボジア工場の立ち上げによる活用になると思います。カンボジアは順調に移管が進んでおり、年末までにはかなりの移管が終了すると思っています。以前にタイのファンモーター工場を中国に移管する時に、スピードを上げすぎて失敗した経験がありますので、今回はその轍を踏まない様に慎重に移管を進めていきたいと思っています。

回転機器はやるべきことは全て明確になっていると理解していますので、それを実行するだけです。

スライドの赤字部分はMoatech社部分が上乗せになった数字です。

- ・歩留まり向上など、生産性改善が進展
- ・高付加価値製品中心の製品ミックスを維持
- ・新製品7mm厚2.5インチHDD向け製品は3ブランドへ供給へ

タイ大洪水被害からの自社生産能力完全復旧へ



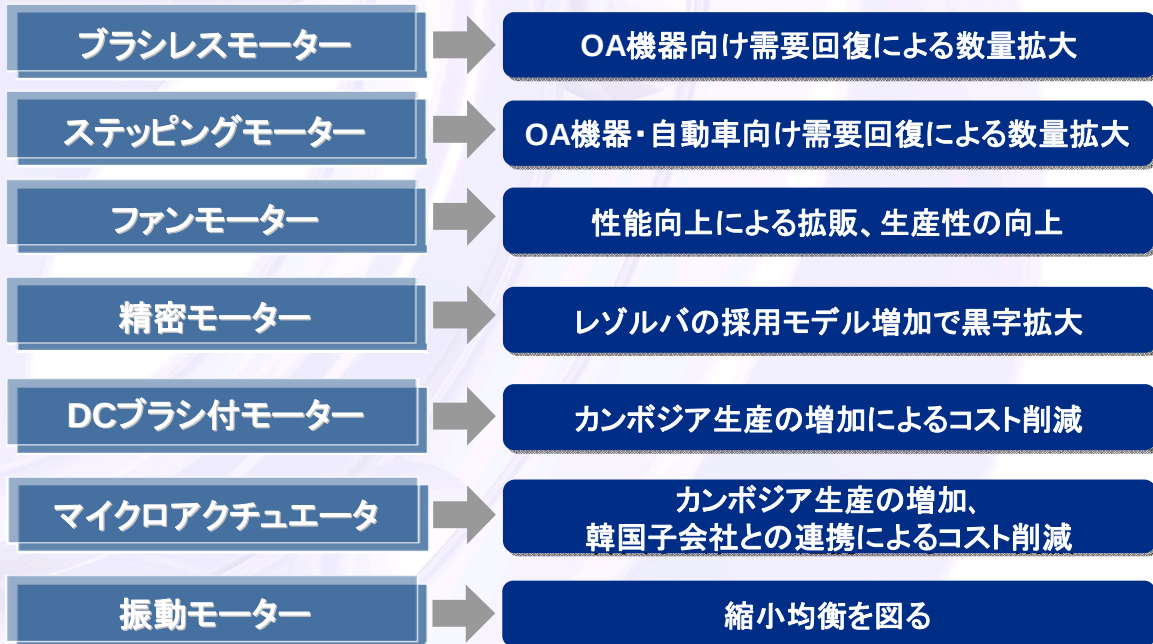
第2四半期に黒字化へ挑戦
下半期以降は安定した収益体制の確立を目指す

2012年5月10日

32

HDDスピンドルモーターについては、歩留まり向上、生産性改善、高付加価値製品中心の製品ミックスとなっています。新製品7mm厚2.5インチHDD向け製品は3ブランドへ供給する体制になっています。前期は実質的には赤字が膨らんだのですが、これまでの努力が結実する直前であり、歩留まり向上に成果が現れ、収益が改善していくと断言して良いと思います。前期第4四半期には、洪水被害による非稼働損という特殊要因を特損とすることで営業利益段階ではすでに黒字が出ていますので、第2四半期には黒字化に挑戦し、下半期以降は安定した収益体制の確立を目指します。

大震災、大洪水からの販売回復を見込む



2012年5月10日

33

各モーターの収益改善策はスライドのとおりです。

アジア人件費高騰への対処＋リスク分散＋OEM事業

2011年12月から稼働開始
順次、小型モーター組立工程(マイクロアクチュエーター、
DCブラシ付きモーター、DCブラシレスモーター)を移管中

OEMビジネスへの参入などにより、
第2棟の建設着手(4月から杭打ちスタート)



2012年5月10日

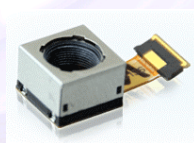
34

カンボジアはお陰様で順調です。

現在、マイクロアクチュエーター、DCブラシ付きモーターを移管中で、先ほど申し上げた通り、年末までには移管を終了させたいと思います。

OEMビジネスも決まってきており、4月に第2棟の建設に着手しました。これに関連しますが、一時外部に部品のビジネスを行っていくと発表しましたが、今の余力設備を新しいOEMビジネスに使うという事が私共の総合力を生かすことになると考えていまして、今の部品部門の生産余力についてはOEMビジネスで利用したいと考えています。

韓国Moatech社の株式50.8%取得に合意



シェア拡大

ステッピングモーター市場で、ミネベア(12%シェア)、Moatech(11%)の2社が組むことで、トップグループ(31%)と並ぶ2強の一角に

低コスト製造能力

Moatechの低コスト製造能力をグループ内に取込む(ミネベアには無いフィリピン製造拠点)

優秀な経営陣

小型モーターのプロである優秀な経営陣が当社グループに参加

成長性

35%所有の上場子会社ハイソニックで、成長性の高いスマホ向け、タブレットPC向けオートフォーカス用ボイス・コイル・モーターを手がける

優良な財務体質

財務的に優良な企業を、割安に取得
自己資本比率76%、ネット現金保有約26億円

販路強化

韓国メーカーへの販路を強化

2012年5月10日

35

Moatech社買収については当局からのご承認を頂きましたので、5月末に手続きが全て完了する予定です。ステッピングモーター市場でトップグループとの2強の地位を作るとというのが今回の一つのメリットではないかと思っています。

それからMoatech社の部材供給源からの協力を我々も得ることが出来るという事も一つのメリットだろうと思います。

また、優秀な経営陣、成長性を持ち、財務体質も非常に健全でネット現金保有は約26億円です。また、ご存知の通り韓国の自動車産業はかなり力をつけてきましたので、これから韓国の自動車メーカーには部品メーカーとしてかなり力点を置いて販売しなければならないと思っています。Moatech社は韓国人のモーター技術者が数多くいますので、私共の製品をMoatech社の技術あるいは営業を通じて売っていく、あるいはMoatech社で得意とする分野を日本のメーカーに私共が売っていくといった相乗効果を出せると考えています。

スライドの一番下の写真ですが、これはボイスコイルモーターのカメラモジュールの写真です。

Moatech社が35%保有するハイソニックという会社があり、そこが作っている製品の写真です。この会社は非常に面白くて、このように機械に手をかざし動かすことでスライドの画面が変わるといった製品も研究開発していて、私共としては先が楽しみだと思っています。

電子機器・その他事業セグメント

電子機器・その他事業セグメント業績目標 (単位: 億円)

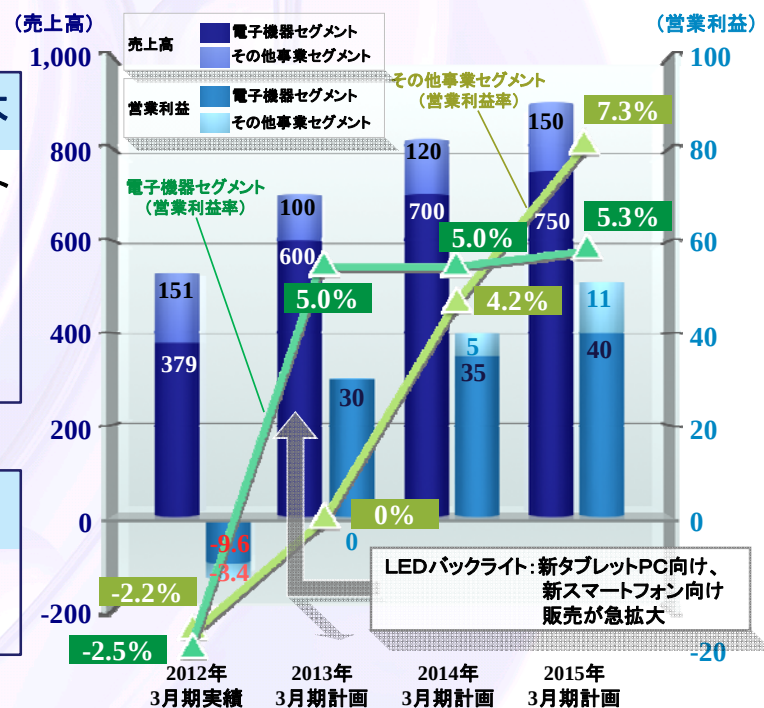
LEDバックライト収益拡大

タブレットPC向けLEDバックライトの出荷は、4月にスタート。下期へ向け販売急拡大

新スマートフォン向けは、5月から増産開始

計測機器販売拡大

自動車向け、医療機器向け、中華圏向け



2012年5月10日

36

電子機器については、大変お待たせしましたがようやく4月17日にタブレットPC向けLEDバックライトの初回の正式発注を頂き、4月中に出荷を開始しました。5月には我々の目標出荷数量の半分位ですが、6月からは目標出荷数量を達成できる見込みです。私共にとっては非常に嬉しい話です。

また、これと同時期の5月後半から新スマートフォン向けのLEDバックライトアッセンブリーの出荷が始まります。7月からは携帯音楽プレーヤー向けのLEDバックライトアッセンブリーの出荷も始まります。

ベストシナリオですと7月頃から月60億円の売り上げになるという目論見があります。これはベストシナリオですから、場合によっては下回るかもしれませんが、これが出来れば今の蘇州工場、タイ工場の現状はドラマティックに改善されると思っています。5～7月の立ち上がりを非常に楽しみに見守っています。

現場では色々問題点もありますが、これを一つ一つ克服しながら先ほど申し上げたベストシナリオに向けて日々努力が行われています。

新製品への事業展開(LED照明)

LED照明(ダウンライト)用薄型レンズの開発と特許取得

メリット1: 薄型(コイン型)で低コスト

LEDバックライトで養った光学技術と超精密金型加工技術を活用して開発

メリット2: 高い省エネ効果

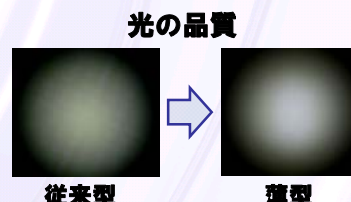
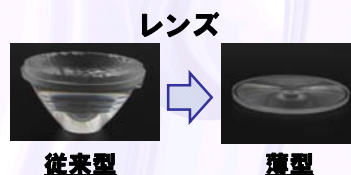
光透過率95%を実現vs従来型レンズは85~90%

メリット3: 低価格のマルチチップLEDが利用可能

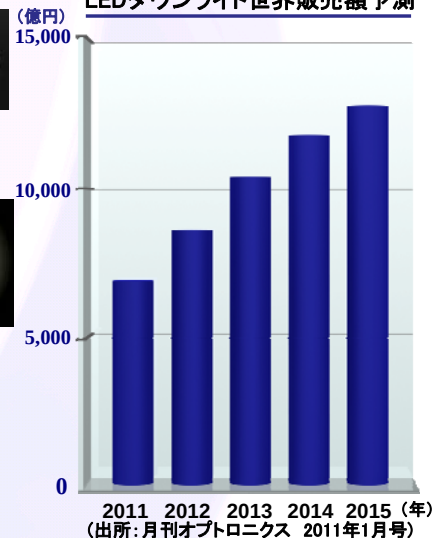
光の均一性が良く、従来型レンズでは難しかった低コスト多素子集積型LEDが利用可能

メリット4: 周辺技術も同時提供が可能

高効率駆動回路、無線(リモコン)、タッチパネルなど



LEDダウンライト世界販売額予測



LED-レンズモジュールを照明メーカーに販売するビジネスモデルで、3~4年後に100億円規模の売上を目指す

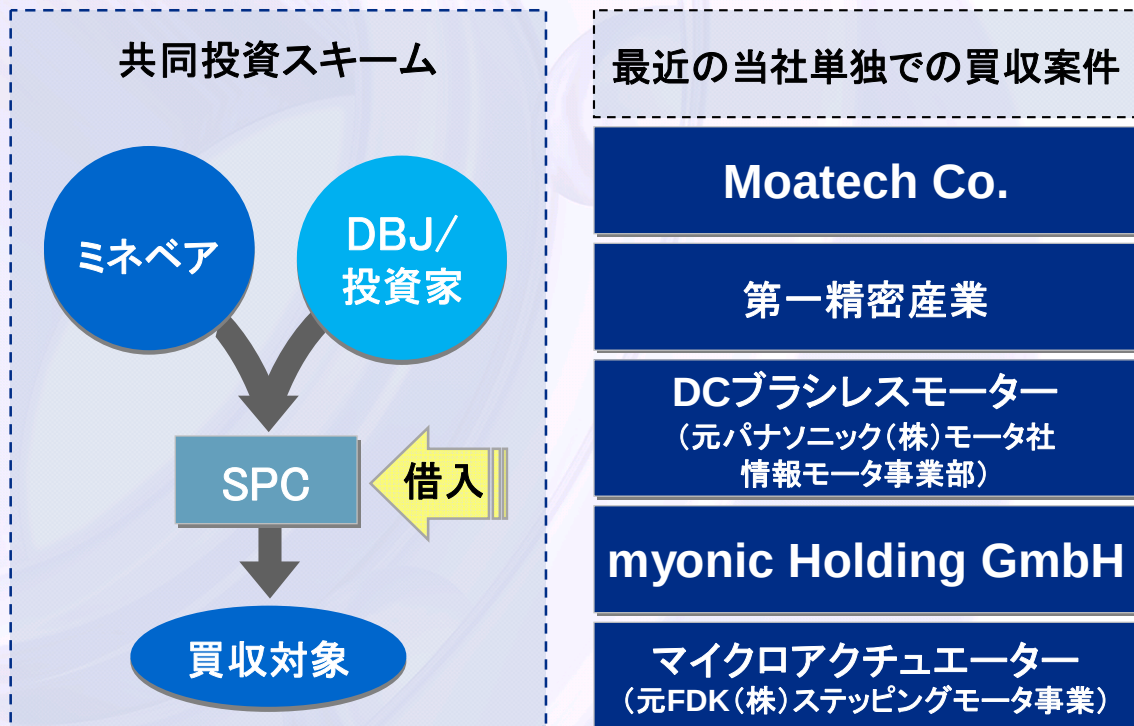
2012年5月10日

37

新製品の事業展開という事で、LEDバックライトの技術を応用したLED照明用薄型レンズの開発と特許取得を紹介したいと思います。

スライドに書いてあるような特長があり、LEDレンズモジュールを照明メーカーに販売するビジネスで、3~4年後に100億円規模の売上を目指します。この薄型レンズを使っているのは、光を絞ったダウンライトの形ですが、これからは光を広げるタイプの開発も進めていきたいと思っています。

M&Aによる機械加工品事業の成長を加速する



2012年5月10日

38

これも2月にご紹介しましたM&Aによる機械加工品事業の成長を加速する、ということについてですが、今の所は未だ進展はありません。実は、後で紹介するE-Shipの第2弾をやることに決めましたので、そのためには重要事実が無いという状態で開始しなければならないので意図的に今日まで進めていないといった事情がありました。しかし、この円高を利用して機械加工品の大型買収を果たしたいと思っており、今期は機械加工品事業充実の年と位置づけています。

インセンティブ・プランの第2弾を導入

2009年11月に導入した第1弾のE-ship®は成功裏に終了

- 従業員持株会加入率、従業員持株会による株式保有比率は、導入前の2倍以上に
- 参加従業員への分配金を支給へ



株価重視経営の一環として、約22億円規模の「信託型従業員
持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」の第2弾を導入

従業員に対して中期的な企業価値向上の
インセンティブを付与

株価意識を共有することで従業員の経営
参加意識を高め、業績向上につなげる

コーポレート・ガバナンスの向上

従業員持株会信託内の当社株式に係る議決権行
使を通じて、従業員が株主として今まで以上にその
意思を企業経営に反映させることが可能と
なり、当社のコーポレート・ガバナンスの向上に
つながる

従業員の福利厚生増進策

※E-Ship®は信託型従業員持株インセンティブ・プラン(Employee Shareholding Incentive Plan)の略称で、野村證券株式会社の登録商標です

2012年5月10日

39

インセンティブ・プランの第2弾ということで、E-Shipを再び設定することと決めました。

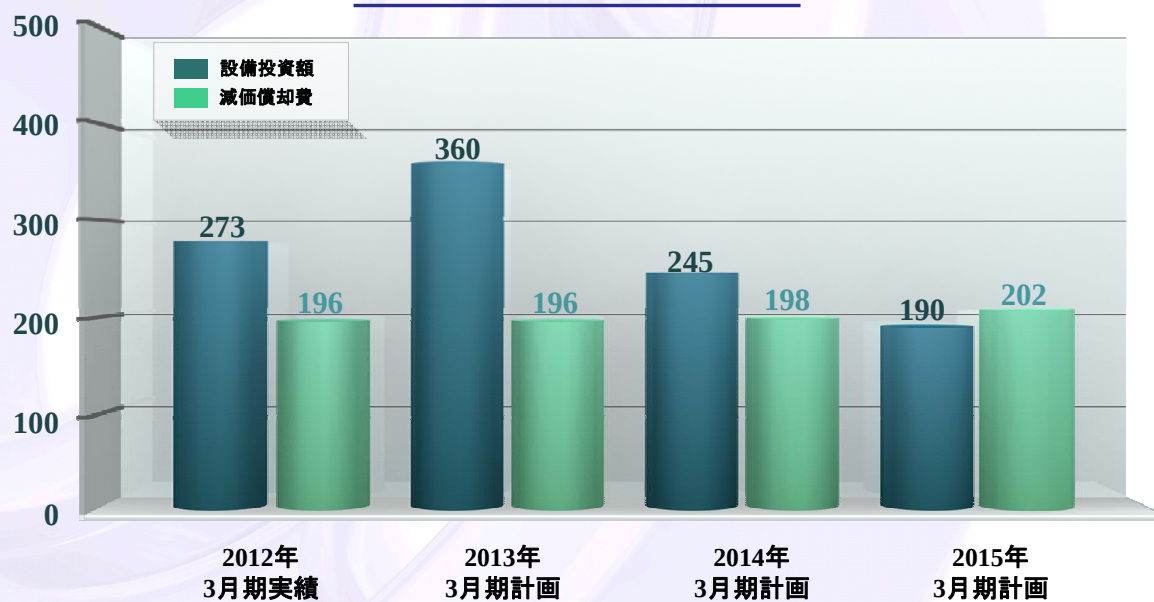
第1回のE-Shipは信託期間を5年2ヶ月と想定して始めましたが、社員の応募が多かったため、予想よりも早く2年6ヶ月で終了してしまいました。株式の取得総額は9億2,000万円でした。

今回はもう少し大きな規模で行いたいと思い、株式の取得金額上限は21億7,000万円、信託期間は5年を予定しています。この金額でどれ位の株数になるかはやってみないと分かりませんが、600万株前後になるかと思っています。従業員の福利厚生と、従業員に経営意識を少しでも沢山持ってもらいたいと思い、インセンティブ・プランの第2弾をやることにしました。

新中期設備投資計画

3年間で 795億円の設備投資を計画

新中期設備投資計画 (単位: 億円)

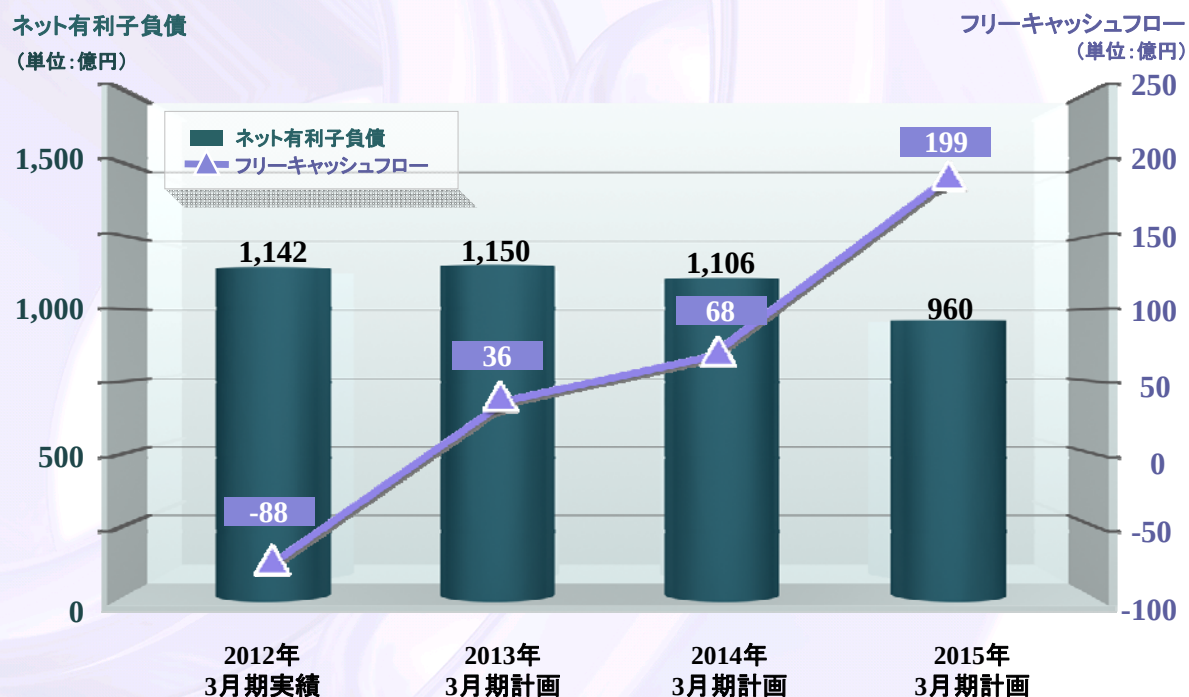


2012年5月10日

40

これが新中期事業計画の設備投資の計画です。

新中期ネット有利子負債計画



2012年5月10日

41

これが新中期事業計画のネット有利子負債の計画です。

配当方針

12/3期 期末配当 **4**円/株 計年 **7**円/株

13/3期 予想配当 中間配当 **3**円/株
期末配当 **4**円/株

・「当社は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかることを基本方針といたします」

自己株式戦略の継続

・経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行

2012年5月10日

42

配当に関しましては、今期も同じ中間配当3円、期末配当4円で行いたいと思います。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2012年5月10日

43